

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 計画

学校名	白石町立有明中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上では、校内研究テーマ「生徒・教師と共に創り上げる 主体的な教育活動の在り方」に伴い、生徒の主体性を育むという視点で授業改善を図った結果、生徒・教師ともにその成果を感じることができた。今後も継続し取り組むことで、さらに生徒の主体性が発揮され、学力の向上につながると考える。 ・心の教育では、道徳教育の充実や相談体制の整備、生徒指導と生徒活動を両輪とした活気ある学校づくりを目指した。生徒に出席と役割を与え、承認する「開発的生徒指導」の充実を図った結果、多くの生徒が充実した学校生活を送ることができていた。 ・「志」を育む教育の推進では、生徒が主体的に「自らの生き方」を考え進路決定できるように、キャリア教育の立案とキャリアパスポートを活用した授業の充実に取り組んだ。アンケートの結果からキャリア教育の視点を取り入れた授業を展開しているものの、将来の夢や目標を持っている生徒の割合は、目標をやや下回った。今後は今まで以上にキャリアパスポートの活用を充実させていく。 ・学校・家庭・地域・小学校との連携を大切に「地域とともにある学校づくり」では、キャリア教育や小学校との連携において、アンケートの結果から「充実した」「学びがあった」と回答した生徒が多かった。しかし、学校全体としては、地域連携の機会が少なく、今後は機会を増やしていく必要がある。また、学校の活動の様子を、保護者・地域等にHPやフェイスブック、学校からの通信等を活用し広く伝えていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	有中62年のフィナーレを飾り、志と誇りをもって未来を拓く生徒の育成 ～志をもち、自ら学び、共に高め合い、たくましく生きぬく生徒の育成～
----------	--

3 本年度の重点目標	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>1 「志」を育む教育の推進</p> <p>3 集団の中での積極的な関わりを通して他者のよさに気づき、自己肯定感を育む教育の充実</p> <p>5 特別支援教育と教育相談の充実による安全・安心で居場所のある学校づくり</p> <p>7 有中のゴールに向かって「通ってよかった、通わせてよかった、動めてよかった」と思う学校の実現</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>2 「主体的、対話的で深い学びの実現」を目指した学力向上の推進</p> <p>4 生徒指導と生徒活動を両輪とした、生徒が主体性を発揮する活気ある学校づくり</p> <p>6 有中生であることに誇りを持ち、地域に感謝し、貢献できる生徒の育成</p> </div> </div>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価
---------------	------

(1)共通評価項目			中間評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
●学力の向上	○「主体的、対話的に深い学び」を通した学力向上の推進	○「主体的、対話的に深い学び」に関するアンケートに肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上。 ○「生徒の主体性を育む」という視点で授業づくりができたと答える教員の割合が90%以上。	・教科ごとのアンケートを継続して実施する。 ・校内研究会での活動を中心に、「主体性を育む」ための発問の仕方や活動のさせ方などに関する情報を共有し、日々の授業に生かす。	B	・中間評価のアンケートにおいて、「授業中、最後まで粘り強く学習課題に取り組んでいる」と回答する生徒は80%を超えていた。また、友達との意見交流をしながらの学習に対してプラスになると答えている。この姿勢を家庭学習へつなげていく必要がある。 ・「生徒の主体性を育む」という視点で授業づくりを見直すことができたと教員の90%以上が回答しており、見直しの内容をより充実させていきたい。
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒の割合を80%以上。 ○全ての職員が道徳の授業を実施する。	・学期ごとに道徳の授業に関するアンケート(振り返りシート)を実施する。 ・職員室に道徳コーナーを設置し、授業の充実を図る。 ・学年の教師全員で道徳の授業に取り組む。	A	・中間評価アンケートにおいて、「道徳の授業では、題材について深く考えることができている」と回答する生徒は90%を超えていた。また職員へのアンケートで、「道徳の授業は、学年全ての職員で実施することができる。」の項目が95%を超えており、職員全体で取り組むことが概ねできている。 ・後期は、さらに職員間での道徳の授業での情報共有を充実させていきたい。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「自分の困りごとや悩みなどについて、相談できる先生がいる。」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合を80%以上。 ○授業づくりや学級づくりに関して「支持的風土の醸成に力を尽くしている」と答える教員の割合が100%となる。	・学校生活アンケートを定期的に行い、学年、学校で情報共有をすることで、複数の職員で多面的、多角的に生徒の支援をする。 ・問題を一人で抱えることがないように、集会や教育相談の際に、相談をすることについての啓発を行う。 ・1事案、複数名対応、他学年からの応援を積極的に実施する。	B	・「自分の困りごとや悩みなどについて相談にのってくれる」の「そう思う」は90%となっており、概ね達成できている。 ・授業づくりや学級づくりに関して「支持的風土の醸成に力を尽くしている」と答える教員の割合が90%となっており、概ね達成できている。 ・後期も、これまでの活動を継続し、さらに、情報を発信することで教職員の意欲を高めていく。
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学校生活アンケートの中に「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」という項目を設け、回答率を出し、情報共有し、意識して生徒の良いところを見つけるよう取り組んでいく。 ・学級活動なかで将来のことについて学習する場を設け、将来の自分の姿を意識しながら中学校生活を送ることができるよう取り組んでいく。	B	・中間アンケートにおいて「卒業後に進む進路についての情報を様々な方法で調べたり、集めたりしている」に対する解答が51%となっており、この部分への取り組みが必要である。学級活動で取り組んでいく必要があると考える。
	○生徒指導と生徒活動を両輪として活気ある学校づくり	○「学校生活が楽しく充実している」という問いに「そう思う」と答える生徒の割合を90%以上にする。 ○「学校行事や学級活動を通して「充実感や満足感を得た」と答える生徒の割合を80%以上とする。	・生徒に出席と役割を与え、それを承認する「開発的生徒指導」の充実を図る。 ・自己有用感、帰属意識を高めるために生徒活動を充実させる。	A	・中間評価のアンケートにおいて、「学校行事や学級活動に主体的に取り組んでいる」、「学校生活が楽しく充実している」という質問項目で、どちらも90%以上の生徒が「そう思う」と回答した。これは、学校行事における実行委員会の取り組みや、全校生徒参加の生徒会活動など、生徒たちの出席や役割を設定し、活躍の場を多く作れたことが、この結果に結びついたのだと考える。後期は、この経験を次のステージで活かしていけるように、さらに学級活動の時間を充実させていきたい。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」生徒が生活習慣の大切さを知り、それが自分自身の将来につながることを理解して生活習慣を正そうとする気持ちを持たせる	○前年度と比較して、「就寝時間11時以降48%」「起床時間7時以降12%」「朝ごはん食べない10%」「テレビゲーム視聴時間平日3時間以上26%」「今の心の状態が元気ではない」と回答した生徒41%が改善できるようにする。	・集団の保健指導、個別の保健指導を取り入れ、生活習慣の改善で得られる心身の影響について考えさせる。 ・保健分野の授業で、からだの成長と生活習慣が繋がっていることを教える。 ・食育の授業を取り入れたら、食に関する情報を発信することで食の大切さについて考える時間を持つ。	A	・生活習慣アンケートを実施し、結果を分析してそれを基に問題点や改善点をまとめ、保健委員を中心に生徒にむけてプレゼンテーションを行った。それを受けて2回目の生活習慣アンケートでは改善が見られた。 ・保健分野の授業で、体の成長と生活習慣が繋がっていることを伝えることができた。 ・中体連前に栄養バランスについての授業を実施し、中学生という時期に必要な栄養素を摂取することの大切さを考えさせることができた。
	○安全に関する資質・能力の育成	○「交通安全に気をつけて登下校している」という生徒90%以上を目指す。	・日々の下校指導で、ヘルメットと蛍光タスキの着用を呼びかける。	B	・登下校時における生徒のヘルメットの着用率は100%であるが、蛍光タスキは80%程度にとどまっている。 ・町内の方々や、出勤中の職員からヘルメット未着用の生徒の目撃情報や横断歩道を自転車に乗ったまま渡る等の危険行為の目撃情報も寄せられていたため、適宜生徒への注意喚起を行う必要がある。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・日々の業務内容の見直しを行い、業務改善を図る。 ・業務改善のための話し合いの場を設定する。 ・アンケートの結果から、次年度に向け取組の見直しを行う。	B	・毎月の業務記録から業務内容の見直し等を行い、職員個々に声かけを行っている。時間外業務時間については、今年度は前年度より減少してはいるものの、引き続き改善に取り組む必要がある。 ・ICTを活用して、業務改善に取り組んでいる。今後も継続して行う。
	○心身共に健康な職場環境を目指す。	○「仕事で悩んだとき同僚に相談できる」という教員を70%以上を目指す。 ○年休取得10日以上を目指す。	・定時退勤日、学校閉庁日、部活動休養日の設定を積極的に行う。 ・学級経営や部活動指導を二人制で行い、互いに話し合いながら業務にあたり、支え合える校内体制づくりを図る。 ・年休取得を積極的に呼びかける。	B	・定時退勤日の設定や呼びかけはできているが、まだ実施に課題も残るため、改善に努めていく。年休取得率は平均10日以上であったが、個々の職員に声かけをしていく。 ・今年度は、学級経営や部活動の支援指導を二人制で行ったことで業務の負担軽減に繋がっている。また、同僚に相談できる職員は90%である。相談しにくい職員に配慮していく。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し
○「志」を育む教育の推進	○3年間を見通したキャリア教育の充実	○将来の夢や目標を持っている生徒の割合を85%以上にする。 ○授業づくりや学級づくりの中で、キャリア教育を充実させていると答えている教員を90%以上にする。	・キャリア教育を充実させることによって、生徒が主体的に「自らの生き方」を考え進路決定できるようにする。 ・系統的なキャリア教育の立案とキャリアパスポートを活用したキャリア教育の実施。	B	・中間アンケートの「将来の夢や希望を持っている」と回答した生徒が71%であった。まだ、持つことができている生徒が多数おり、系統的なキャリア教育を進めていく必要がある。 ・後期には3年生の受験が控えており、3年生の取り組みだけでなく、1年後、2年後の自分の姿を思い浮かべることができるような取り組みを1・2年生で取り組んでいく。
	○特別支援教育と教育相談の充実による安全・安心で居場所のある学校づくり	○生徒の特性や個性に応じた共通理解と組織的な支援 ○外部機関との連携を図った組織的な対応	○「学校生活が楽しく充実している」と感じる生徒の割合を80%以上にする。 ○生徒一人一人の特性に応じた指導の工夫改善に努めている教員を90%以上にする。	・週に一回、特別支援部会と教育相談部会を開き、生徒の情報交換を行い、対応を検討する。 ・全教員で対応ができるように生徒指導協議会等で生徒の状態の情報や対応について共通理解を図る。 ・特別支援学級の生徒の情報わかりやすいようにファイルを各クラスの授業支援ファイルと個別の支援ファイルの2つを整理する。	B
○有中生であることに誇りを持ち、地域に感謝し、貢献できる生徒の育成	○生徒が、閉校に向けて様々な行事で主体的に取り組む、有中の伝統や文化を重んじ、地域を大切に思う態度の育成	○地域・小学校・家庭との交流・奉仕活動等を通して「学ぶことがあった」「通って良かった」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ○学校たより、学校HP、フェイスブックなどで、学校の様子が分かるかと答えている保護者を80%以上にする。	・総合学習において、地域の有識者の方を招くなどして、地域連携の構築を図る。 ・地域の活動や小学校の行事に参加したり、ボランティア活動に取り組んだりしていく中で、閉校への思いを持たせながら「地域貢献」、「小中連携」、「校種間連携」等の構築を図る。	B	・2年生ではキャリア教育及び地域との交流を学ぶためにCSW「職業体験学習」を行った。学習が充実していたり、学ぶことがあったという生徒は100%であった。また、「通って良かった」という生徒は、97.2%で目標を達成したが、残りの生徒への配慮を忘れずに対応していく。 ・学校たより、学校HP、フェイスブックなどで、学校の様子が分かるかと答えた保護者は86.4%であった。今後も継続して発信し、家庭や地域と連携して教育活動を行っていく。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---